

関門連携委員会



4月27日(火)下関市において、約30名の委員出席のもと、2021年度第1回関門連携委員会を開催した。

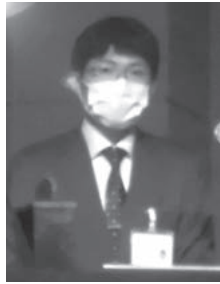
当日は、下関市都市整備部 部長 平澤良輔氏によるご講演の後、当委員会の2020年度活動結果報告および2021年度事業計画を審議し、原案どおり承認された。

ここでは、講演の概要を紹介する。

【講演要旨】

「下関北九州道路を見据えた取り組み」

下関市都市整備部 部長
平澤 良輔 氏



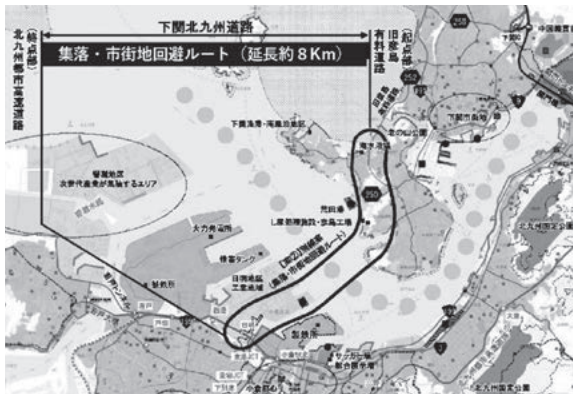
■関門地域の現状と課題

関門海峡の最小幅は僅か600m。海峡を挟んで人口約120万人の都市圏を形成し、下関市と北九州市間の通勤・通学の往来は1日あたり約1万人。一方、自動車で渡る手段は、関門橋と関門トンネル2つのみであり、海峡が都市圏を分断している。

- 現在の関門海峡間の車両交通量は、1日約7万台
- 老朽化する関門橋や関門トンネルでは自然災害や事故、補修工事等による通行止めが頻発。市民生活や企業活動へ大きな影響を及ぼしている
- 下関市と北九州市の中心部間の移動は、大きな迂回が必要(直線距離の約2倍)
- 下関市と北九州市を結ぶ主要交差点では渋滞が発生

■下関北九州道路の意義・目的

下関北九州道路は、下関市・北九州市の都市部を結ぶ約8kmの海峡道路で、地域の一体的な発展に寄与。



【暮らし】都市間の行き来を容易にし、交流人口の増加と生活圏を拡大

【産業・物流】産業・物流拠点を効果的につなげることで、円滑で安定した物流ルートを形成

【観光】関門海峡周辺に点在する観光資源を享受できる循環型周遊観光ルートを形成

【代替路】既存道路の通行止め時の代替路を確保

中国地方において“特色ある地域戦略を描く”ためにも、九州圏域との結節点である関門地域の交通ネットワーク強化が必要。

■下関北九州道路整備へ向けて

令和2年度から計画段階評価手続きに着手し、本年3月に整備ルート帯を決定。

今後は、環境アセスメントと都市計画を進めるための調査に移行するが、各種手続きの円滑実施に向け国と2県2市で協力していく。

■今後への期待

下関北九州道路の完成を見据えた街づくりについて、多くの意見をいただいております。

- 下関北九州道路に付加価値を付与(ビュースポットの設置など)
- 橋の魅力を活かした観光の企画(夜景周遊ツアー、バックヤードツアーなど)
- 海峡海岸地域の公園(火の山公園など)等の開発・整備
- ツーリングコースやマラソンコースの整備などスポーツイベントの企画
- 地域食や製品とのコラボレーションによる新名物の開発や企画 など

下関北九州道路は、当地域の経済や暮らしなど地域の活性化には必要不可欠であり、地域の皆様の声を挙げて頂きたい。今後、下関市は下関北九州道路の整備を見据えた街づくりや地域産業の振興にも注力していきたい。

(担当: 齊藤)